令和5年度 自己評価表

鳥取県立米子高等学校

中長期目標	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、他者と協働し地域の未来創造に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり 5 業務カイゼンへの取組
-------	--	----------	--

評価項目	評価の具体項目	現状	年 度 当 初		評 価 結 果 2 月		
			目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 確かな学力の育成	○学力の向上 ・基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ・思考力、判断力、表現力の更なる育成 ・主体的・対話的で深い学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業及びルーブリック評価、観点別評価に関する研修を実施した。 Google for Education や ICT活用が進んだが、アクティブラーナーの活用が遅延した。(ICT機器活用100%) 資格取得(食物検定78%、被服検定100%、保育検定77%) 	・組織的、計画的に授業改善を推進する	<ul style="list-style-type: none"> Google for Education を活用した授業を実施 BYAD対応、ICT機器を活用し、ルーブリック評価・観点別評価のあり方についての校内研修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用が昨年より増加、授業での積極的な活用がなされた。 ルーブリック評価に関する講演会を実施し、「産業社会と人間」でのルーブリック評価の活用や教科での活用を行った。 1・2年次生は、全員Chromebookを購入。連絡や課題、振り返りシートの提出など行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用について、有効的な活用となるよう授業研究等で継続しての取組を行う。 ルーブリック評価や観点別評価についての研修会を継続して実施する。
			・各教科1人以上が授業公開し、教科横断型授業、授業改善を推進	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業を各学期に1回実施し、教科内での研鑽を高めることができた。 授業アンケートから2年次2学期での評価が1学期に比較し、低かった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教科横断型(他教科とのコラボ等)の授業について研究し、授業改善を進めていく。 公開授業を他教科の教員も参加する。 2学期以降の授業改善、授業の魅力化への取組を実施する。 	
			・各系列の特色化と資格取得の促進 ・資格試験合格率70%以上	<ul style="list-style-type: none"> 系列ごとの各種資格・検定の受験を促し、合格に向けての支援 学校独自事業の充実、特別支援学級との交流 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後等資格・検定の合格に向けて個別指導等を実施。(各種資格検定試験40種類の内、合格率70%以上のもの21種類) 学校独自事業および特別支援学校との交流が計画通りできた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種検定の合格に向けて、放課後等の個別学習の継続。 資格取得のために意欲を向上するよう目標を立てる。
			・生徒が主体的に学習に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の定着(学習時間調査での1日2時間以上の家庭学習) 読書する機会の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 11月の家庭学習時間調査では、1年次生の平均が2時間を超えたが、個人差が目立った。2年次、3年次は2時間以上の家庭学習ができていない。 学習習慣の定着に向けて、各教科が課題を出しているが、徹底ができていなかった。 図書館でのイベントを通して読書の機会を増やすことができた。(図書館人狼、しおり作成) 貸し出しの冊数は昨年度と同等であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各科目から家庭学習取組の課題を出し、主体的に学習に取り組む姿勢を指導し、評価する。 グーグルクラスルームを活用して課題提出を行う。 図書館でのイベントの継続する。 教科で扱う内容について、本の紹介など読書のすすめを行っていく。
2 豊かな人間性の育成	○基本的生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 安全意識の高揚と啓発に努めたがヘルメット着用率は10%であった。 遅刻者数は前年比10%減であったが、遅刻確認票の徹底が不足した。 SNSに起因する問題行動があったが迅速に対応できた。 生徒会執行部が主体的に学校行事等の企画・運営をして活動することができた。 50周年記念事業でマスコットキャラクターの制作紹介ができた。 国際交流については、コロナ禍の影響で直接はできなかった。 外部機関(SSW, 児相、医療機関、要対協)との連携が密にでき、早期に対応できた。 学校生活アンケートで自己肯定感が高い生徒が80%を超えている。 	・規範意識・安全意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 米子高校生としての身だしなみ・礼儀を促す行動の啓発強化 SNSトラブル未然防止に向けたデジタル・シティズンシップ教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の服装指導、粘り強い指導を行い、身だしなみや挨拶の改善がみられたがまだ十分ではない。 学年全体で指導を行い、進路目標とつなげ生徒に粘り強く指導することができた。 SNSでのトラブル未然防止のため夏季休業前にデジタルシティズンシップ講演会を開催、意識が深まった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の服装指導、粘り強い指導を継続し、月例の服装指導に加え、朝の服装指導週間を実施する。 学年と生活指導部とが連携し、継続して指導。服装再指導の生徒を把握し、必要に応じて保護者への連絡を密に行う。 SNSでのトラブル未然防止のため夏季休業前にデジタルシティズンシップ講演会を開催する。
			・掃除の徹底と整理・整頓の推進、時間管理、挨拶の励行	<ul style="list-style-type: none"> 掃除の様子は概ね良好であったが、一部であるが掃除の徹底ができていない。 生徒会執行部を中心としたあいさつ運動を実施している。 職員側から挨拶の声かけを実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 掃除を徹底するために点呼と呼び出しを徹底する。 生徒会執行部を中心としたあいさつ運動を継続する。 PTAふれあい運動での参加者を増やす。 職員側から挨拶の声かけを継続して実施。 	
			・自転車ヘルメット着用率100%	<ul style="list-style-type: none"> 自転車ヘルメット着用徹底(生徒による啓発・PTA連携) 	<ul style="list-style-type: none"> ヘルメット着用週間の実施、交通安全週間に合わせての職員立ち番指導を実施し登校時の着用については改善がみられたが、下校時の着用率がまだ低い。 交通安全に関する講演会を実施、ヘルメット着用や自転車での交通ルールに対する意識が高揚できた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ヘルメット着用週間を増やし、交通安全週間に合わせての職員立ち番指導を実施する。 ヘルメット着用や自転車での交通ルールに対する意識を高揚するため講演会を1学期早期に実施する。
			・遅刻者数前年比10%減少	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻確認票による遅刻者指導の強化と保護者連携 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻確認票の徹底を3学期から改善することで強化することができ、遅刻者が減少傾向となっている。 必要な場合は、生徒への指導と保護者への連絡を行い連携を図った。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 3学期から改善した遅刻確認票の方策を継続し、未提出者への指導と厳格運用の継続をしていく。 引き続き、生徒への指導と保護者への連絡を行い連携を図る。
			・生徒の各種活動への積極的参加	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部を中心とした生徒会行事等の活動充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部を中心に、学校行事、生徒会活動に企画、運営を自発的に行うことができた。 部活動加入が年度当初増加したが、所属活動を変更する生徒に、声かけと活動呼びかけを行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部の活動を継続して実施する。 部活動加入について、未加入者への聞き取りを徹底する。
			・外部指導者、部活動指導員の活用や効率的な練習方法を研究・導入し、顧問の時間外業務を削減と部活動の在り方検討	<ul style="list-style-type: none"> 外部指導者の活用により顧問の時間外業務の削減(月45時間未満)につながっている。 外部指導者指導により活動への意識の向上や各種大会、イベントでの指導に活躍をみせた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 部活動指導員、外部指導者の活用を継続する。 	
・アメリカ、韓国の姉妹校との交流の継続促進	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ、韓国の姉妹校との交流の継続促進 	<ul style="list-style-type: none"> 3月STA短期留学の実施。5名の生徒がホームステイを行うことになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> STA短期留学の継続実施と受け入れを行う。 令和5年度に中止された韓国との交流について、交流先を探している。 			
○支援が必要な生徒への援助	・生徒情報を共有し、適切な支援ができる	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談に関する校内研修、各種委員会での情報共有、外部関係機関との連携による適切な対応 	<ul style="list-style-type: none"> 迅速な情報共有を行い、保護者との連携を密にすることができ、早期の関係修復や解決することができた。 特別支援に関する研修等を計画通りに実施し、対応することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援に関する研修等を計画し、実施していく。 教育相談員やSSWとの連携を密にし、早期に対応できるように引き続き体制を整えておく。 		
	・豊かな人間関係を築き、生きる力を育む	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケート(年2回実施)で自己肯定感が高いと回答する生徒が80%を超えるようにきめ細かい支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 1年と3年について自己肯定感の高い生徒が引き続き高い割合92%であるが、提出率について1年95%、3年91%に対して2年が71%と低い。 	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケート項目を見直し、自己肯定感に対する項目が適切かを検討する。 提出率を向上するために、グーグルフォームの活用や回答時間を適切に実施する。 生徒への丁寧な対応が必要である。 		
	・人権学習委員が主体となって活動できる人権教育LHRの運営、活性化した学習を構築	<ul style="list-style-type: none"> 人権学習委員が主体となって活動できる人権教育LHRの運営、活性化した学習を構築 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次の人権学習について、主体的な活動ができ一定の評価を得ている。 人権教育LHRでは生徒人権委員を中心として活動することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に活動できるワールドカフェ形式の継続をする。 人権委員を中心に活動し、クラス全体の活動につなげていくような学習を実施する。 		

年度当初				評価結果 2月				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
3 自己実現のための進路指導の充実	○探究学習の充実	・「探究学習」にSDGsの視点を導入することで全学年の系統的なキャリア教育の構築に務めた。	・進路実現に向けて主体的に努力し学びに取り組む態度の育成	・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」の系統的な探究学習の深化	・各種取組については概ね計画通り実施できた。 ・社会人講話については講師数を増やし、充実を図ることができた。	B	・探究学習について、改善の検討を行い、実施する。 ・社会人講話について、継続して充実を図る。	
	○キャリア教育の発展	・探究学習の成果が米子市に提案できなかった。 ・キャリアパスポートの作成はできたが、活用方法について課題が残った。		・「新商都米子まちづくり」へ参画し、学習成果を米子市に提案	・探究学習について、外部との連携して発表することができた。 ・県知事との対談や米子市主催のシンポジウムでの提案など積極的に活動することができた。	A	・外部と連携し、米子市へ学習成果を提案する。	
	○進路指導の充実	・大学進学35名(内国公立3名)の結果であり、就職27名(内公務員5名)であった。 ・看護体験がコロナ禍であったが実現できた。 ・先進校視察ができなかった。	・大学進学25名以上(内国公立5名以上)	・キャリアパスポートを活用した進路指導の実施し、自らの成長を実感できる取組 ・学習成果発表会における他校生徒との交流	・キャリアパスポートを作成しているが、活用に至っていない。 ・他校生との交流が参加ができていなかった。	C	・効果的な活用方法について、書式を含め検討が必要である。 C	・他校生との交流や参加できる日程や工夫が必要である。
			・外部講師による放課後学習会、公務員講座の充実	・教員研修と進路希望検討会、探究学習の充実による進路保障 ・各種職場体験の実施による進路実現	・放課後学習会は島根大学学生を予定していたが、学生の参加が辞退となり、自習室として実施し、自学自習の場が増えた。 ・公務員講座の実施により鳥取警察1名、自衛官一般曹候補生3名の合格となり成果があった。 ・職員向け小論文指導研修の実施。志望校への合格に成果があった。 ・大学進学者38名(内国公立7名)と目標を達成することができた。 ・保育園実習の再開など職場体験の実施が計画通りできた。 ・現3年次生就職内定の内、2年次3月の事業者見学での職場見学時の企業に就職することができ成果があった。	B	・放課後学習会での自学自習とタディサブリを活用した学力の補強を確立する。 ・公務員講座の継続して実施する。	
4 地域との連携による学校づくり	○地域のニーズに応じた地域貢献	・コロナ禍でのイベントのため制限があったが、開催をする工夫等を行い活動をみせた。 ・地域との連携により学校への信頼、期待がなされている。 ・小学校へのキャリアガイダンスを実施することができた。 ・学校運営協議会の活動の活性化がコロナ禍のために不十分であった。 ・情報発信については、ホームページの更新を迅速に行うことができた。	・文化芸術活動、系列での事業、総合的な探究の時間を通して地域のニーズに積極的に答える	・部活動における各種イベントの企画・開催と参加(ハイホット・ダンスフェスティバル、施設訪問、書道パフォーマンス) ・部活動単位におけるボランティア活動等地域への参画	・計画通り実施ができた。 (吹奏楽、UTA同好会は保育所にて交流を5回、夕暮れコンサート(8月)、夢フェス(9月)、3校合同演奏会(1月)、スプリングコンサート(3月)、美術・漫画研究部は日吉津イオン作品展示似顔絵制作、南部町祐生出合いの館作品展、ジャパンタイムス活動発表、ダンス部のハイホット・ダンスフェスティバルなど) ・ボランティア体験事業42名、中海清掃25名、皆生トリアスロン12名の参加があり、多くの生徒がボランティアを通じて地域貢献をすることができた。能登半島地震の募金活動を生徒会執行部で行い、34,842円の募金を集めることができた。	A	・計画通り実施する。	
	○積極的な社会参画と情報発信	・社会に繋がる教育活動を推進	・系列事業、総合的な探究の時間における活動で地域貢献を促進(イチゴ栽培・収穫交流、花壇用草花植栽活動、プログラミング教室、夢蔵プロジェクトとの連携)	・系列の事業について計画通りに実施することができた。 ・探究学習での夢蔵プロジェクトとの連携について継続的に実施していく。	A	・計画通りに実施する。 ・夢蔵プロジェクトと連携していく。		
			・学校運営協議会を活用した地域との連携活動の推進(はるかかのひまわり絆プロジェクト、自転車ヘルメット着用指導)	・はるかかのひまわり絆プロジェクトでは、執行部を中心として種まき、種の収穫を行うことができた。来年のプロジェクトに向けて十分な量の種を収穫することができた。	B	・学校運営協議会と地域との連携活動の推進を実施する。		
			・高校生出前キャリアガイダンスによる生徒活動の活性化	・中学校(8校)、小学校(1校)へのキャリアガイダンスを実施し、好評を得ている。 ・生徒自身の自信にもつながっている。	A	・中学校、小学校へのキャリアガイダンスを継続実施する。		
			・マスコットキャラクターを活用した各種イベントへの積極的参加	・各種イベントでの活用を行った。	A	・各種イベントでの活用をする。		
	○前年度に対して、時間外業務の削減	・令和4年度時間外業務実績平均18.2時間、上限方針に係る事後的検証の対象となった。 ・時間外勤務が45時間を超える教職員が複数名いた。	・時間外業務時間が前年度比10%減 ・年間の時間外業務時間が前年より減少	・部活動顧問の時間外業務の削減(外部指導者、部活動指導員の活用) ・勤怠システムのセルフチェック、時間外時間を翌日に入力することで意識付けを行う	・3年ぶりの全校での鑑賞ができた。 ・今年度の来場者 300人(令和4年度170人、令和3年度117人)	A	・継続して実施する。	
・ホームページでのタイムリーな情報発信			・随時更新を行い、ほぼ毎日更新している。 ・HPへのアクセス数は、令和5年4月まで約348,000人、令和6年1月まで約401,000人である。1日平均閲覧者数約180人	A	・随時更新を行う。			
5 業務カイゼンへの取組	○分掌業務の見直し	・分掌内での業務の精選 ・ICTの活用	・共有ファイルの在り方や書類の整理を行い、誰でのわかるようにしていく	・学年連絡ボード(職員室)、学年フォルダーの整理整頓を行った。 ・共有ファイルをわかりやすく整理し、情報を共有しやすい体制を作ることができた。 ・整理整頓について継続的に行っている。	B	・学年連絡ボード(職員室)、学年フォルダー、共有フォルダの整理整頓を継続して実施する。 ・整理整頓について継続的に行う。(学期末の執務室清掃時などを活用)		
			・業務の効率化と意識改革の推進を行う	・教員業務支援員の活用で、業務の精選や効率化を図った。 ・引き続き、意識改革の推進と業務の精選を行っていく。	C	・教員業務支援員の活用を図る。 ・引き続き、業務改善するために業務内容の精選や意識改革の推進を行う。		

評価基準 A:十分達成[100%] B:概ね達成[80%程度] C:変化の兆し[60%程度] D:まだ不十分[40%程度] E:目標・方策の見直し[30%以下]